

新著紹介

○海圖の話 國生行孝著 古今書院發行

定價一圓八十錢

本書は海軍中佐國生氏の近著である。海圖の構成海圖原版の作製、海圖の改訂といふ三大章と總記より成り立し菊版百二十六頁の手頃な本であつて、附圖としてはコロンブスの使用した海圖、一六五〇年頃の古い海圖など珍らしく、その説明は製圖法に及んでメルカトルプロレクションの原理や多圓錐投影圖法などの説明が極めてあつさりわかりやすく書かれてゐると同時に海圖の出來上る順序が懇切に示めされてゐる、海軍の人々にしてみればナンダこれ位の簡單なものがといふかもしれないけれども、一般の常識を求める人に對してはこれ十分である、海圖の尺度、轉輪羅針儀、燈臺など海國の少青年に知らしたい事實も多くつけてある、予は喜んでこの低廉な書籍を江湖に推奨したい。(藤川)

○自然單元世界地誌

ディアーヌウエイン著

金尾宗平抄譯 古今書院發行 定價二圓五十錢

本書は福岡師範の金尾氏の近業である。四六版三百四十頁餘の小さい世界地理書である、予は今原著を座右に持たないから、本書が忠實に原著の趣を表現してゐるか否やを知らないが、支那人の生活といふ一節には、支那人は下手な算術家である、だからその測定法と貨幣制度とは、しつかりとして

る程の群衆となり或者は食物を持參し或者は飲物を携へ非常な好意と愛とをもつて集つて來ました。どの島にも一本の丸太から成るカノー舟があります。舟は狭いものでありまして形と長さにとつて吾々の艚ぎ舟に似てゐますが運行はこれよりも一層早くあります。彼等は只櫂を用ひて舟の方向を定めます。或舟は大きくあり或舟は小さく或舟は中形であります。大きな舟には十八の横木があります。この舟にて彼等の間に貿易は無數であります、この舟にて彼等の間に貿易通商を營んでゐます。艚舟の大なるものには七八十人の艚手の居るのを見ました。これ等の諸島に於ては住民の外觀習慣言語は相異なる處無く彼等は皆互に了解してゐます。このことは吾々の最有名なる王によつて切に望まれるであらうと私が想像する目的の爲めに非常に重要なことであります。即ち基督の神聖なる宗教に彼等を改宗せしめることであります。基督敎を信ずることに關しては彼等は敵意をもたず容易に信する傾向をもつてゐます。(手紙續)

ゐないといふ記事があるが、これは筆者の管見とは全く相違する。支那は貨幣制度が確定しない、中央集権が徹底しない國であるから、あらゆる種類の貨幣が取引される、それを限りなく申水をうつて取引してゆく頭惱は、下手どころか、どうして日本人などの及びもよらぬ優良な算術家である。又日本の部では北海道の部で日本政府は種々の手段で移民（北海道へ）を奨励してゐるが、國民はこのあまり面白くもなさうな土地に乗り出すことを躊躇してゐる。これは氣候のためばかりでなく、日本人の缺くべからざる食物の米を耕作することにあまり適しないからであると記してあるが、これ又今日の北海道の實際とは相違してゐる。譯者は日本人である、目に見えた外人の誤記を平然と譯出するのは不心得であらうと考へる。日本の家屋の骨組は竹であるとか、行燈が屢々火事を起し易いとか、人力車の外には車があまり見られないといったやうな、明治時代の古い日本をかけたのを、そのまま記すといふ事は却つて原書がつまらぬ本だらうと想像する以外に効果がないと思はれる。（藤田）

○都市平安京變遷史 附古地圖集 藤田元春著

京都東洞院二條 スマカケ出版部 定價六圓

都市研究と題し、古地圖集と註した所に本書の主張がある四六倍判百六十五頁古地圖、玻璃版同大二十四葉、挿圖十、裝幀に凝つた意匠をしめし、編を分つこと二、一は京都市域の發達と變遷及古地圖發達の歴史をのべ、一は 集古地圖の解

説で附するに資料展覧目錄二篇と索引をのせた美本である。

著者の自序によれば『古い地割は永久にのこる、時代を異にすれば勿論その環境はかはる。しかし同じ土地の上、同じ古い都城の跡である、たとへ新しい地割が行はれたとしても自ら古い時代の影響がのこる、新様を以て全く舊態を覆すことは出来ないであらう。予が京都古地圖を研究した重大な理由がそこにある』とある通り、本書は古地圖によつて、我京都市の變遷を究明したものである。蓋し平安京の昔から、京白河といつた時代。上京と下京。祇園神人と下京。織田信長の上京放火。豊臣秀吉の都市政策。六條以南の發展と本願寺さては川東への膨脹に伴ふてお土居の撤去。さうした來歴を綜合した結果一枚の京都市變遷圖（玻璃版）が新に作られた。これは實に我京都市研究家にとつて、最も信頼されるべき最初の市變遷地圖であらう。

京都市は文化の都である、その資料は甚だ多い。幸にさきに京都市府都市計畫課がその大展覧を行つたので、著者はこれを見て大に刺激をうけたらしい。

本書は單に京都市の地圖の變遷を論じたのみでなく、これによつて我國の地圖學の發達を論じ併せて書肆、大さ、種類、有力な參考となることであらう。第二篇の圖版解説を讀んでゆくと、その撰定された理由も明になり、凡そ十七八枚の原圖によつて殆ど我京都市の各時期に於ける様子かわかり、最後の明治九年の銅版によつて近世地圖出版の長足の進歩を證

することが出来る。天保二年版は美はしいカツパ摺の標本として、鮮明な原色玻璃版として口繪となつてゐるのも親切な試である。

讀者は本書によつて古い平安京がどうであつて、その後京白川といつた時代の様子應仁大亂の後の京都、さては秀吉のつくつたお土居と今の京都との關係、もしくは最近に大京都となつた新區域と古京との關係等を理解されると同時に、源氏物語や平家を読む時の參考を隨所に求められる。

土御門内裏の最初の大き、その後の京都御所の發展なども之を明にすることが出来て、一讀京都通になつたと考へられるであらう。古い都であるから後世秀吉といへども手をつけなかつた部分があつて、それが現存して京都の中樞となつてゐることを證明したときは、都市計畫家に對する參考ともなりうる。従つて單に人文地理學者のみの參考書ではないと思ふ敢て江湖に一本をすゝめる。(一)

報 雜

○英國造船業の昨今

英國の造船業は世界主要諸國の間において今猶絕對的優越の地位を保ち其一年の建造噸數は世界總噸數の殆ど半を占めつゝあれども、戰爭直後の大景氣一過して以來其建造噸數は著しき減退を示めし、一九二三年の三百七十萬噸を絶頂として急轉直下するに至り、最近やゝ

復活したるも猶百五十萬噸の程度にすぎず、隨て全盛時代に擴張した船臺の大部分は殆ど不用に歸しつゝあり、その原因は主として海運の世界的不振にあるは勿論なるも一方軍備縮少の影響もきつい、戰前軍艦類は二割五分を造つたのに今は激減して一割四分となつてゐる、將來も其復舊は覺えない、加ふるに近時海運界は大船舶建造の趨勢益々顯著となり、戰前五百隻で百五十萬噸のものや三百五十隻を以て僅に同じ噸數に餘る、かうした事情で不用船臺も増加したので、將來近く恢復の見込みないから、今回主要造船會社共同して *National Shipbuilders Security, Ltd* なる會社を設立した、この新組織は造船業を集中する共同計畫であつて、時代後れの造船所を買收閉鎖するのを目的とし過剩建造力の除去と、生産の集中とを謀るにある。蓋し英國造船業は過去二年間徐々に世界造船界に於ける地位を鞏固にしてきたとはいへ、この際合理的に管理しかへることは望ましい。

大戦中政府の強制により、潜航艇戰爭の爲に生じた商船や軍艦の急速の補充をはかつたが、今後さうしたことは當分あり得ない、幸に斯業に於て世界的に第一位の手腕をもつために、外國からの注文も減退はしなかつたから、一九二八年一九二九年二度にわたつて労働者の賃銀を増加することを得たけれども今日に於て新しい經營に移ることは急務であり、労働者と雖もよくその必要を理解した、勿論この爲めに一時失業者の増加を見ることあるべきも、斯業の基礎が確立したら却つて地が固まつて労働者の方も都合がよくなるといふこと